

令和3年度 西陵中学校 3年生実施による全国学力学習状況調査結果から

今年度の全国学力・学習状況調査は、国語、数学の2教科で4月中旬に3年生で実施されました。この調査において測定できるのは学力の一部分であるものの、その結果から各教科並びに生活習慣における本校3年生の優れている分野（強み）や不足している分野（弱み）について分析をしました。これらの分析をもとに、優れていると考えられる分野での実践継続や、不足していると考えられる部分の力を伸長する授業実践の工夫や生活改善につなげ、さらに充実した学校生活を送れるよう取り組んでまいりたいと思います。

＜本年度の調査の概要について＞

1. 教科に関する調査（国語、数学）

調査対象：国・公・私立学校の中学校第3学年

出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

出題内容：下記（1）と（2）を一体的に問う。

- （1）身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- （2）知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

2. 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

調査する学年の生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

＜国語＞

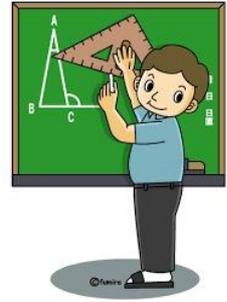
正答率を見てみると「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では県平均を上回っており、特に漢字の問題では県平均、全国平均を上回る満足のいく結果でした。逆に正答率の低かった問題をみると、「書くこと」や「読むこと」の分野では文章の展開に即して情報を整理して内容をとらえることや、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を選ぶことが苦手であるという結果がみられました。文章の流れを論理的に捉え、分析する力を高めるために、今後の授業の中で、論理的思考力を高める取り組みを入れていく必要があると感じました。また、場面にふさわしい適切な語句使用や文の構成を身につけるために、語句や文法の学習を深めると共に、表現力を高める活動に取り組む必要もあります。「書く」問題で無解答の生徒がいることから、「書く」取り組みを効果的に授業に取り入れていくことも必要だと感じたので、定期的に表現活動を行っていきます。

生徒質問紙でも「国語の勉強は好きですか」という設問に対し、肯定的にとらえている生徒は全国値や三重県値と比較し8ポイントほど下回っています。国語の正答率の低さは苦手意識からもたらされる部分も大きいと考えられます。「国語の授業内容はよくわかりますか」という問いでも全国値・三重県値を下回っていました。今後も授業改善を重ね、生徒にとってわかりやすい授業を目指していくと共に、「国語の勉強が好き」と言える生徒を一人でも多く増やすために、魅力ある授業を展開できるよう、努力と工夫を重ねていきます。



<数学>

全体として全国、三重県の平均を上回った結果となりました。学習指導要領の領域「数と式」「関数」については県・全国の平均と概ね並んでおり、「図形」「資料の活用」においては県・全国平均を上回る結果となりました。本学年の生徒は昨年度までのみえスタディチェックにおいて、県の平均を下回っていましたが、数学では少人数による授業をおこなうなど、これまでの授業改善や学習の成果が表れたものと考えられます。生徒質問紙の「数学の勉強は好きですか」の設問でも、全国値・三重県値共に上回っていました。中でも、「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の設問に対し肯定的な回答をした生徒の割合は全国値を8ポイント、三重県値を6ポイント上回っており、生徒が数学の学習の必要性を理解しながら取り組んでいることが、より効果を上げていると考えられます。



「数学的な技能」を問う問題では、全国平均より5ポイント上回る結果となりました。中でも、反復横跳びの記録の中央値を求める問題では全国平均より10ポイント上回っていました。この問いはデータに基づいて不確定な事象を考察する場面において、数・式・図・表・グラフなどを活用して、数学的に処理することや、与えられたデータから中央値を求めることができるかどうかをみています。与えられた条件から最適解を導き出す能力は今後、求められる力の一つです。数学の学習を通して、将来の起こる様々な問題に対し、多角的・多面的に考え、様々な答えの中からその場に応じた答えを導き出せる力を高めていきたいと考えています。

無解答率は県・全国平均と比べ高かったが、記述式の正答率は県・全国平均よりも高く、じっくりと学習に取り組むことはできていると思われれます。今後も問題文を丁寧に読み取ることと、課題解決に向けて粘り強く取り組む力を育てていきたいと考えています。

生徒質問紙の調査とは、該当学年の生徒を対象にしたアンケート調査で、学習状況や生活状況について回答しています。これらの回答から見えた結果を基に、本校の生徒たちの強みや弱み（課題）を紹介します。「自分には、よいところがあると思いますか」という設問では、肯定的な考えを持つ生徒の割合が全国値・三重県値を8ポイント以上上回る結果となりました。自己肯定感が高い子どもは高い集中力を持つ上、意欲的で強い精神力が備わっているといわれます。つまり高い集中力のもと物事を進められるため、結果も出やすくなり、さらには問題解決能力も高いと期待できます。また、「将来の夢や目標を持っていますか」という設問でも、肯定的な考えを持つ生徒の割合が全国値・三重県値を12ポイント以上上回る結果となりました。本校の今年度のキーワードの一つ「DREAM」にも通じるものであり、生徒一人ひとりがここに向けて高い意識を持って生活していることが読み取れます。自分のキャリア形成に向け、夢や目標を持って進むことで、目前に控えた進路選択でも粘り強く取り組むことができると考えられます。このことは、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」の設問で肯定的な回答が全国値を10ポイント、三重県値を7ポイント上回っていることから、「3C」の一つ「Challenge」の精神が根付いていることが読み取れます。今後もチャレンジ精神を持ち、困難にも立ち向かっていき、力強く成長していくことを願っています。

「家で自分で計画を立てて勉強していますか」では「2時間以上」と答えた生徒が全国値・三重県値と比べ半分ほどの値であり、計画的な学習習慣に課題がみられました。その一因として、「携帯電話・スマートホンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」の設問で「守っていない」と回答した比率が全国値や三重県値の倍近くであったことや、「1日どれくらいの時間、テレビゲームをしますか。」の設問には、「4時間以上」という回答が全国値より7ポイント高く三重県値より3ポイント高いことなども考えられます。ご家庭での時間の使い方について、これを機会にご家庭でお話し頂くと良いかと考えます。



